

〜教室で初オニー〜

織部ユイ

2024年6月28日

15時16分

『……興味本位で媚薬なんて飲まなければよかった……』

私は兄が持っていた媚薬を興味本位で使ってしまった。

なぜ兄が持っていたかは謎だが、今はそんなことはどうでもいい。

この疼きを鎮めることが最優先だ！

うっ

『媚薬のせいでおま〇こが欲しがってる！』

『……少しだけ……ほんの少しだけ……』

『私もこんなものを持ってきているなんて……大概変態なのかも……』

私は自分で自分に呆れながらもま〇こに挿入していた。

『集会抜け出してきちゃったけど、大丈夫。。。だよね。。。』

ううっ

色々心配事はあるものの、体は勝手に動いている。
不安なことを思い出すたびにま〇こが疼き、
それがさらに快感を呼んでしまうのだからタチが悪い。



『みんなが授業を受けている教室でオナニーしちゃってるっ……』

うっ

んんっ

はっ

はうっ

オナニー

オナニー

『みんな帰ってきちゃう……
うう、焦ると余計気持ち良く……んっ……
やばい、やめられないっ……』

やめなきゃいけないとわかってはいるものの
見られるかもしれないと言うハラハラ感と
媚薬の効果も重なってなかなかやめられないでした。

『誰かの足音が聞こえたような……!』

足音が聞こえたせいで私は余計に興奮してしまった。

見つかったら学校生活が危ぶまれる危険と隣り合わせなこの状態に興奮せずにはいられなかった。

『……………やめなきゃいけないのに腰が勝手に動いちゃう!』

……………見つかったちゃうっ……………!』

んあっ

んっ

イっ

トキ
トキ

『……………ドキドキして……………』

これまでのどんなオナニーよりも気持ちいい!

教室でイっちゃう!……………だ、だめっ……………!』





ゴクゴク

『気持ち良過ぎておしっこが止まらない!』

ガクガク

ドキ

ドキ

『人が来る前にやめなきゃいけないのっ!』

焦れば焦るほど、溢れ出してきてしまう。

今まで感じることのなかった快感を得ながら早く止まってくれと願っていた。

ゼツ

〜犬なのでトイレはお外です〜

織部ユイ

2024年8月19日 17時30分

はあっ

はあっ

あっ

誰かに見つかったらまずいという焦りと恥ずかしさで頭の中は一杯だった。
そこに尿意も襲ってきたため、私はどうしたらいいかわからなくなっていた。

『ここまでできたけど……もう限界！』

脚がガクガクするし……トイレにも行きたいっ！』

ゴクゴク
ゴクゴク

ゴクゴク
ゴクゴク

「もう限界かも！お願いだからトイレに行かせて！」

「声を出しちゃダメって言ってるのに……」

「……ちようど外だし……でしちやいなっ！」

はあ

はあ

うっ

こんな格好をさせられて、それだけで恥ずかしさは限界なのに
その上、外で放尿なんて考えただけで悶絶ものだ。

「グッ
グッ
グッ」

「うう、絶対にこんなところであると嫌！」

「そんなこと言ってもぎつきからちびってるじゃん！
もしかして気が付かなかったの？」

「歩いてきた跡がくつきり残ってるよ〜！」

「それと俺の言うことは聞かなくちゃね！」

「全校生徒にあの恥ずかしいオニー写真を見られるのがいいか、
それとも俺一人だけに恥ずかしいところを見られるのがいいか選んでいいよ！」

うずうず

「……………わかった……………ですっ……！」

私は全校生徒に写真をばら撒かれてしまった時の恐怖と尿意に負けてしまった。



「因みに、隠しててわからなかったと思うけど、
このお漏らしシーンも超小型カメラで録画してあるからねえ！」

『エッ』

突然明かされた事実と恥ずかしさから目の前が真っ白くなっていく。



「しっかりぶちまけてスッキリしたみたいだし、今日は帰りましょうか！
とんずらまたよろしくー！」

『……………うっ、……………は……………』

あまりにもシヨッキングな出来事が重なり、私は頷くことしかできなかった。

「ザーマン布団の上で耐久バイブ」

織部ユイ

2025年3月26日 16時13分

男子にメイド服のまま寝かされた。

男子が準備した、そのドロドロとした物体が

時間が経つにつれ、服の中にまで侵食してくる。

うっ

んあっ

んんん

んんっ

『精液が服の中にまで入ってきて、ドロドロ感が伝わってくる……』

嫌でも肌で感じ取れてしまうヌルヌル感と異臭が頭をおかしくする。
しかし、嫌だとは思いつつもバイブによって気持ち良くなってきたら
ことに気がついた。

『臭いの……バイブのせいで……気持ちいい……』

普段味わったことのない感覚に徐々に思考が停止していく。
嫌悪は次第に快感に変わっていた。

んんっ

んんっ

がざッ

頭では気持ち良くなりたくないと思っっているが、

体が言うことを聞いてくれない。

私は必死に体の疼きをこらえるが、

こらえようとすればするほど快感が体を包み込んでいく。

そんな葛藤をしているうちに体の疼きが最高潮を迎えているのを感じた。

『男子の精液まみれで興奮してイっちゃうなんて嫌っ！』

何も考えることのできなくなってきたら頭の途中でそんなことを思いながら、私は絶頂を迎え、遂に漏らしてしまった。

『……こんな状態でイっちゃうなんて……』

んあっ

あ
あ
あ

うっ

『……あっ、またきちゃう』

頭の中ではダメだと思っただが、

体と心は正直でいとも簡単に2度目の絶頂を迎えてしまう。

んんっ

結局、私はこの状態であと3回男子の前で噴水ショーをすることになる。

様々な経験をさせてあげましょう

織部ユイ

2025年4月20日 16時00分

『この状態で1時間耐えたらほごいてくれるって言われても……うっ……
……い、一時間は無理……んっ……』

いっ

両腕、両足を縛られ、私は三角木馬なるものの上に座らされていた。
座らされていたとらうニュアンスが正しいかどうかは微妙だが、
股間から伝わってくる痛みは凄まじい。
意識が飛びそうな中、解らなくなるのを信じて待つしかなかった。

『股間が引き裂かれそう……っ、痛っっ』

ズ
ズ
ズ
ズ

ギ
ギ



（五分後）

座らされて5分が経過したが一向にほどこいてくれる気配がない。
というよりも人の気配が全くしないのだ。
快樂というよりも痛みによって私は何度か漏らしかけていた。



『も、もう限界っ！』

『……………さっきから何度もちびちびちやってるじっ！』

（六分後）

「お願いしますっ！ほどこいてください！誰かっ！返事をしてっ！
お、おねがい…………お…………おねが…………ら…………」

ドク

ドク

ドク

ドク

ドク

んくっ



（七分後）

『なんで誰も返事をしてくれないの……』

いつ解放されるかわからないまま激痛と戦うには、私にとつてとつともなく辛かった。そして、頭が真っ白になっていく。

拘束されてから7分が経過した頃、尿意と痛み、恐怖、

そして我慢していてももう仕方がないからという思いから私は我慢することをやめてしまった。

はあっ

どくっ

ゾロロ

ゴクッ

ゴクッ

ゾー

ニャー

あっ

あんっ

『お股がおかしくなっちゃう……、も、もっやだっ……』

〜二時間後〜

「はい、終了ですー！」

「……あれっ？返事がありませんねえ！」

「これは結構悲惨な状態だね！」

「これじゃあ、今日の体験はこれで終了しかないですねえ！」

「仕方ないので、今日やるはずだった他の体験は明日に持ち越しですー！」

はあっ

ひんっ

ドクッ

プッ

ドロ

「……………」

「……………」

はあっ

ん

アムアム



く無垢な子供のおもちゃになるく

原山紗枝

2025年10月19日 17時30分

私が目を覚ました時には、

パンツの中にバイブが挿入された格好でベンチに縛り付けられていた。

『うそっ！なにこの格好！』

えっ

幸いにも周りには子供が多かったが、大人の姿はなかった。

『誰かに助けてもらおうしかない……か……』



「お姉ちゃん、どうしたの？何かの遊び？」

パンツ丸出しなおかしな格好に興味を持ったのか男子の子が話しかけてきた。
突然現れた救世主に私は内心ほっとした。

「……監禁ごっこ……かな？」

よかったらこの縄をほどいて欲しいんだけど……できるかな？」



私は安心し、息を吐いたが
それはひとときの安らぎだったことを思い知らされる。

「このリモコンなんだろう？」

この変なマークのボタンって何かな？」

「それは押しちゃだめなやつっ！」

あっ



男の子の手によってバイブにいきなり電源が入り、体が反応してしまう。
バイブがま〇こに刺さっているだけという
焦らされていたのと変わりないこの状態で急に動き出したのだから仕方がない。
もともと熱を帯びやすい体の私にとって
この状況事態が興奮材料になり得るものだったのだ。
刺激を欲しがっている身体にバイブの振動が加えられたことで
さらに一層体が火照っていく。



一刻も早く、電源を切ってもらわないと解放されるまでイキ地獄必死だ。



「ボタン〜のた〜のボタン〜のた〜」

んっ

「そのボタンを押して…んっ……………電源を切ってくれる〜」

グ
グ
グ

ズ
ズ

男の子は躊躇することなく、振動を増幅させていく。

「お…ね…がい…んっ…」

でんげ・あんっ…んんのボタンを…おしてっ…」

んっ

はっ

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

あんっ

「お姉ちゃん、どうしたの？」の「たす」のボタンがいろいろ？
もっと押してあげるっ！」



『この子、完全に私で遊んでる……!』

はあ

はっ

キゅんっ

がげっ

アハハ

アハハ

男の子は緩急をつけた操作をする。

わかってやっているとは思えないが、それによって私の体は火照らせていく。

体が疼き、快感を覚える。

絶頂を迎えそうになる絶妙なところで男の子はパイプを止める。

そうすると気持ち良さが頭に残ったままになる。

その繰り返しが一層ま○この疼きを加速させた。



はあ

んくあ

ドンキ

ドンキ

んくあ

んくあ

今まで溜まっていた欲求が吹き出したかのように
バイブが刺さっていた割れ目から大量の潮が吹き出した。

「もういくの嫌だっ！頭がどうにかなっちゃっ！」

早く…はやくバイブを止めてっ、縄を解いてっ…」

「楽しいからもうちよっ」と

はぁ

ゼツ

ゼツ

ドロ

はぁ

んっ

しかし、この縄をほどいてもさらえることはなく、

バイブが止まったのは男の子が十分に楽しんだ後だった。

奮闘むなしく、その後私は何回もの絶頂を繰り返すことになってしまった。



「神社存続の為、身を粉にして働きます」

織部ユイ

2027年5月22日 16時30分

「さっきから生暖かいものばかりかけられて……変な感じ……」

アハハ

アハハ



実家の神社が金欠のため、

苦肉の策として男性の性欲処理事業を行うこととなった。

最初は兄の突拍子も無い案に苦言を呈したが、

お金には変えられないと止むを得ず実行することになってしまった。

一回
下縁

アハハ

先ほどから数人の参拝客から液体をかけられているが、抵抗せずにただかけられるだけというのも変な感じた。

「兄ちゃん、トイレにも行きたくなってきたし、もうやめようよー」

下半身が露わになっている為、流石にトイレにも行きたくなってきた。



「もう少しだけ、やっつけていこう!.....頼むっ!」

「.....うん.....わかった.....」

下縁

「参拜者に喜んでもらえるようにサービースしようっ！」

兄はサービースに託けて私にパイプを装着させた。

慣れた手つきで、あまりにもあっさりとおつけていらしたので抵抗する暇がなかった。

ザーオンをかけられていたこともあってパイプもすんなり入り、

気づいた時には、パイプの入ったお尻を突き出して

ぶっかけを望んでいる淫乱巫女が完成してしまっていた。

はぁ

はっ

パイプ

グザッ

グザッ

「えっ、なにこれっ!?
パンツで押されてっ!.....んっ.....!」

回

突然のことで驚きはしたが、今まで精液をかけられ続けていたおま○んはパイプの振動と共にビクビクと感じ始めてしまっている。

「更にサービスでこれも追加っ」と

参拝者もお喜びだよっ！」

さらに兄のサービス心もとい遊び心はビーママァン♪♪♪♪♪。

「お尻まで！だめ、お尻はだめっ！」

普段絶対に入ることのないお尻の穴に異物が入ってくる初めての感覚だ
息苦しさを感し、腹部が苦しくなってきた。

「んんっ、お腹が苦しー！」



「ほらお客様だよー笑顔えがおっ！」

「どうぞ、思う存分かけていってくださいら♡」

苦しさで恥ずかしさで泣きたい中、無理矢理に笑顔を作った。

んっ

ギョッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

こんなお尻を突き出している格好、
しかもパイプとアールビーズ付きな無様な格好を
周囲の人に見られている。

その事実が恥ずかしさと共に気持ち良さも感じさせる。

そして尿意も相まって、お尻が小刻みに震えているのが自分でもわかった。

「おなかも苦しいし、あそこもパイプでかき回されてウズウズしてる……
そろそろやめないと限界来ちゃうっ！」

下
絡



「兄ちゃん、そろそろ……って、なんで振動強くなるの？
おっきながらギョギョって言ってるじゃんっ、んっ……」

はあ

はあ

んっ

んっ
んっ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

処理一回
有縁



『……………』

ぶっかけられるだけならと思って始めたことが、
お漏らしまで晒してしまつたことになるとは思わなかった。
穴があったら入りたいとはまさにこのことだと実感した。

今思えば、

お尻を晒してぶっかけられるとついう行為自体おかしかったのかもしれない。
私の人生、こんなことばっかりだった気がする。

はあ

「今日は結構稼げたぞっ！」

また、お金がなくなったら頼むなっ！」

毎回嫌だと思いつつも流されてきた私のことなので、

今後も流されてしまう可能性は高そう……かも……………

はあ

ホタ
ホタ

「オナニーランニング」

原山紗枝

2028年8月10日 13時17分

人前で絶頂する快感に私は酔いしれていた！
以前、公園でいく感覚を得てからというもの、
普通のオナニーでは物足りなくなってきた。そして、
そのため、自分から人前に出て醜態を晒すことで
快感を得るようになってしまった。

今日は人通りもまばらでベレる心配が少ないのと適度な刺激が得られる為、
絶好のオナニーランニング日和である。



軽くイッては収まりを先ほどから繰り返している。
繰り返すに連れ、快感が増していつているのが自分でもわかった。

『この何度もいく感覚がたまらなくいい』



んんっ

はあっ

いんげん

再び絶頂が訪れ、今までとは比較にならないような快感が全身を襲った、
その瞬間、今まで溜めていたものが一気に溢れ出してきた。



「この感覚、めっちゃくっちゃ気持ちさらさらやめらならっー」

あん

はあっ

ああっ

んんん

香
ろ
ろ

シ
ャ
ッ

私は脳に分泌されるドーパミンによってとてつもない快感を得ていた。
足をガクガクさせながら走っている様子は明らかにおかしい。
そしてよく見れば、液体を垂れ流している。

そんなギリギリなスリルを求めているおかげで絶頂時の快感は凄まじい。

んあっ

んんっ

ウッ
グッ
ッ

人が来るたびにゾクゾクする！

そうしているうちに我慢できないほどの快感に再び襲われた。

意識が飛ぶような強烈な感覚に

またしてもパンツの中ですごい勢いでおしっこが発射された。

「ぎ、気持ちいい……」





ここからなんとか家まで戻ることができたが、
これ以降の記憶が私にはなかった。

ハア

はあッ

あッ

ウッ
グッ
ウッ

グッ

ゴッ
ゴッ

〜ザーマン弁当をどうぞ〜

織部ユイ

2025年3月26日 15時00分

何でメイド服なの？

「その方が萌えるでしょ？
メイドさんに一回アーンしてみたかったんだよね！」





してもらったじゃないんだ……

は、はあ……



「ということで、お弁当持ってきたから食べてねー！
嫌がったらわかってるよね？」

う、うん……
お弁当を食べるくらいなら……



「おっおっおー！」

えっっ

はっ？

えっ

ドン！！



「フルーツだよ！
ちやんとさっき練乳かけてきたばかりだから」

こ、これが練乳？

ま、まじ？

普通の弁当じゃないの!?



うっ、匂いがっ！

フルーツの甘い香りと混ぜって
……生臭い匂いがするっ……

うっ



「生臭いとか失礼だねー！
さっき絞ってきたばっかなんだから！」

練乳は加工品だから……！
しぼりたてとかありえないんだけど……



「まあ細かいことは気にせず、
食べて食べて！」

これ絶対…あ、あれでしょ…？
やだ、食べたくないっ！

ぷるん



「わからない子ですね〜！
これは練乳だよ。いい〜!?
今後、聞き分けがなかったらすぐにあのこと
バラしちゃうからね〜！」

.....
れ、練乳.....です.....

アホ



うう

.....アーン.....

うう、ヨイツのなんて
食べたくないのだ...

「よくできましたー!
それじゃあアーンして〜」





甘さの〜苦さの〜が…

なにこれ、不味すぎ！

じゅぽっ

じゅぽっ

「ほんじゃあ次は二つ同時に行くよー!!」

待って!

私、そんなに食べられない!

さっきの二つで胸の辺りがドロドロしてるの!!







んっ

あっ、口から吐てきちやっつ。。。

もどもど



うう、飲み込めない……

んっ

んっ

もぐもぐ

もぐもぐ



んっ、何とか飲み込めた！

ゴ
ッ



はあっ

ううん



うぐっ

うー、気持ち悪いよおー
うぐっ、吐きそう……

「それじゃ次いくねー！」

ちよ……ちよっと待って！
……ごめんなさい。もう無理かも！

フルーツとせ、……練乳が混ざって
お腹の中がおかしいの！
これ以上食べたら吐いちゃう！






「ええ〜〜！
……どうしてもダメならちゃんと『お願いします旦那様！』
って頼んでみて！
そうしたら考えてあげてもいいよ。」

えっ！

んんん

「んんんんんん」



お、お願いします、だ、旦那様！
これ以上は食べられません！

「おお、かわいいねえ。
わかった、そこまでいうなら別の遊びをしようじゃない！
ちよっと準備するから待っていてねー！」



「準備できたよー！こっちきなあ」

メイド服汚しちゃった……
これコイツの……じゃないよね？

持ち主さん……
ごめんなさい……

♪授業中はローターをつけましょう♪
||1限終了したら外していいですよ||
織部ユイ

2024年8月30日 14時25分

『男子に精子をかけられて、その上お漏らしちゃうなんて……』

んん

あんっ

『バイブの振動を変えられると……んっ……気持ちいい……』

ウん

グッ



〜6限目体育の後は放課後バイブ〜

||一時間耐久テスト||

織部ユイ

2024年9月2日 17時5分

しやっ

あ

ゴクシ

ゴクシ

あ

ゴクシ

ムシ

「もっ……限界っ！……子宮が振動でおかしくなっちゃっっっ」



〜お漏らしいただきませす〜

織部ユイ

2029年6月21日

21時35分

「それ舐めてもいい？」

「いいよっ！」

舐めたらいうことなんでも一つ聞いてくれるんですよ、
兄ちゃんっ！」

























下縁一回処理

















